

Title	或積分方程式ノ固有値問題
Author(s)	河口, 商次
Citation	全国紙上数学談話会. 10 p.a-p.c
Issue Date	1934-09-07
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/73866">https://doi.org/10.18910/73866</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 29. 或積分方程式・固有値問題

河 口 商 次 (北大)

吾同家が見レハ"言成"ツマラナイコレカモ知レナイカ"幾何学"見方  
 カ起ツタ問題ヲ"幾"文南スヲ採シラモ見当ラナイノヲ"吾同家"目カ  
 カヲオ借りニタト思"ツテ"コノ紙ホシオ借りスル。

問題ハ Hilbert ノ三 種 積 分 方 程 式

$$\varphi(x) = A(x)\varphi(x) + \int_a^b K(x,y)\varphi(y)dy$$

= 関スルモノヲ"此方程式ヲ linear operator ト見做シ

$$\varphi(x) = L\varphi(x)$$

ト考ヘル。ソノトキ  $\varphi(x)$  ト  $f(x)$  トカ" 常数ノヒツテ"異ルコトガアルカ。則

$$(1) \quad \frac{1}{\lambda}\varphi(x) = A(x)\varphi(x) + \int_a^b K(x,y)\varphi(y)dy$$

ノ 固有値問題ヲ"アル。特ニ  $A(x)$  カ" 常数ヲ"アルナラハ"コノ問題ノ  
 Fredholm 積分方程式ノ固有値問題トナル。又  $\frac{1}{\lambda}$  カ" 常数ヲ"ナク  
 $A(x)$  = 常数カ"掛ツタモノヲ"アレハ"

$$A(x)\varphi(x) + \lambda \int_a^b K(x,y)\varphi(y)dy$$

トナツテ之ハ Hilbert カ" 既ニ 言 論ニ"テナル。然レニ (1) = 関シラハ  
 誰モヤツテ平ナイ様ナノヲ"今迄 得タ結果ヲ 述べ供セテ未解決  
 部分ヲ提示シヨウ。先ツ"今迄 得タ結果ハ

$$(1) \quad \text{一般ニ 固有値即チ } D\left(\frac{\lambda K(x,y)}{\lambda A(x) - 1}\right) = 0 \text{ ノ 根カ" 必ス" 存}$$

在スルトハ 限ラナイ。  $A(x) \equiv \text{const.}$  ノトキヲ"サヘサウテ"アルカラ

(2) (1)が恒等的零でない連続解シモノは  $\lambda$  が固有値であることが必要十分である。

証明スルニハ (1)を変形スルニハ  $\frac{\lambda K(x,y)}{\lambda A(x)-1}$  を核とする同次方程式となるからソレは Fredholm の定理を適用スルバシイ。

(3)  $\lambda$  が固有値で  $D\left[\frac{\lambda K(x,y)}{\lambda A(x)-1}\right]$  の階数が有限である (1) の解ハ  $n$  個の函数  $f_i(x)$  である。

$$f(x) = \sum_{i=1}^n C_i f_i(x)$$

ト表ハサレル。

(4) 固有値ハ  $K(x,y)$ ,  $\bar{K}(x,y) = K(y,x)$  に対シテ同一である。階数も等シイ。

(5)  $\lambda$  は  $K(x,y)$  の一ツの固有値、 $\mu$  は  $\bar{K}(x,y)$  の一ツの固有値スレバソレ等ニ対応スル固有函数  $f(x)$ ,  $\bar{f}(x)$  がある。

$$\int_a^b f(x) \bar{f}(x) dx = 0$$

即チ直交関係がある。

(証明)

$$\frac{1}{\lambda} f(x) = A(x) f(x) + \int_a^b K(x,y) f(y) dy$$

$$\frac{1}{\mu} \bar{f}(x) = A(x) \bar{f}(x) + \int_a^b \bar{K}(x,y) \bar{f}(y) dy$$

第一式に  $\bar{f}(x)$  を第二式に  $f(x)$  を乗ゼテ相乗ニ積分スルニハ

$$\left(\frac{1}{\lambda} - \frac{1}{\mu}\right) \int_a^b f(x) \bar{f}(x) dx = 0$$

$\lambda \neq \mu$  であるから証明デキタコトナル。之カラ次ノ事カズヘル。

c.

(6)  $K(x, y)$  が対称ならハ"固有値ノ與ナル固有函数ハ直交スル。

(7)  $A(x)$ ,  $K(x, y)$  が共=実テ"  $K(x, y)$  が対称テ"アルハ"ソノ固有値ハ必ス"実テ"ナケレハ"ナラナイ。

(証明) 複素数  $\lambda$  が固有値テ"アルハ"共軛数  $\bar{\lambda}$  モ亦固有値ニナリソレヲ=対スル固有函数  $f(x)$ ,  $\bar{f}(x)$  モ亦  $\bar{\lambda}$  = 共軛テ"アル。然ルニ (6) = ヨツテ  $\lambda \neq \bar{\lambda}$  テ"アルカラ  $f(x)$ ,  $\bar{f}(x)$  トハ直交スル。シハ矛盾デ"アル。

大体以上ノコトハ簡單ニ証明出来ルノテ"アルカ"  $K(x, y)$  が"実テ"対称テ"アルトモ固有値カ"存在スルカト"ウカハ一寸証明出来ナイ。即チ  $D\left[\frac{\lambda K}{\lambda A - 1}\right]$  カ"  $\lambda$ ノ整函数ヲ"ゲイカラ Hilbertノ理論トハ同ニ"ヤウニハ行カナイカト思ハレル。又固有函数ヲ"  $K(x, y)$ ヲ展開スルコトモ簡單ニハ行カナイ様ニテ"

$$\sum_n \left( \frac{1}{\lambda_n} - A(x) \right)^2 f_n^2(x) \leq \int_a^b K^2(x, y) dy$$

此ハ証明テ"キル。コノ也 Hilbertノ理論ト同ニ"様ニ理論カ"出来ハ"都合ヨイテ"アル。以上未解決ノ部分ニ対シテ解答ヲ求メタイ。

(9.9.7 受取)